

「吃音を語り合おう」

15+h 静岡県親子わくわくキャンプ便り

題15回わくわくキャンプには例年と少し形を変えて、小学校高学年以上の吃音当事者と吃音のお子さんの保護者、支援者が、共に吃音を学び「吃音を語り合おう」と集いました。今回の集いの中でのキーワード、そして参加者の感想を中心にご報告します。



<第1部>伊藤伸二先生の講演

日本吃音臨床研究会代表の伊藤伸二先生のご講演は参加者全員の質問に答えるという形で進められ、一つ一つの質問全てに丁寧にお答えいただきました。

伊藤先生の一言一言には毎回感動し、考えさせられます。当事者として親として支援者として、「自分自身の生き方に向き合う」ことのできた時間でした。

- 今年も元気ももらいました。また一歩進んだ気がします。
- 自分の将来に生かせるようなお話。吃音があったからこそその経験を活かしていきたいです。
- 少し気持ちが楽になった気がします。
- 吃っても大丈夫、そんな大切なことを先生の経験をもとに少しわからせていただき感謝です。
- 対話を大切にというお話を聞いて今のままでいいんだと安心できました。
- 自分の思いを言語化することでいろんなものが見えてくると思いました。
- 吃音は治ることはない。でも、日常生活の中で、対話をし、しゃべってしゃべって変わっていくという言葉がとてもうれしかった。
- 吃音に対する無理解な言葉に大変苦しみました。伊藤先生のお話を聞いて、そのような時間も必要だったのかなと思いました。
- 息子は歌うのが大好きなので一緒に歌います。そのままを受け入れていきたいと思います。
- 息子の吃音を知ろうと思っていたのですが、私自身が問い正されている思いでした。見守る、待つ、対話する、親としてどうしたらいいか分かった気がします。
- 吃音が出ると、本人も私もどうしようと悩んでしまいましたが、「吃音」と仲良く付き合っていく、と気持ちを切り替えようと思いました。子どもに楽しい人生を送ってほしいです。

「吃音を認め、吃っていても自分の人生を豊かに生きる」

そのために吃音をしっかりと勉強しよう。落ち込む時には落ち込んだほうがいい。

「自分に正面から向き合い、時間をかけ、ゆっくり、自分で考えていく力」をつけよう。

吃音は強敵。ライフステージによっても吃り方、悩みは変わっていく。

その時その時しなやかに吃音に向き合っていくよう準備をしておこう。

「対話なくして自分たちは変わらない。」

対等な対話を通して自分の気持ちを言語化していくことを大切にしよう。

「吃音は症状の問題ではなく、どう受け止められるかの問題」

「吃音を自覚し、受け止めるのは本人」

「吃った吃らないにかかわらず、この子はこの子の人生を歩んでいくことを信じて待とう。」



<第2部>先輩の対談

吃音にまつわる自分の体験を生かし、子どもと向き合い、いたみのわかる教師になろうとしている植田さん、身近な人の死やけがの体験から、自分の人生に後悔しないよう医師を目指す森田さん。頼もしい先輩の学生さんの対談は伊藤先生のコーディネートのもと、多くの感動と、ときには笑いを誘いながらとても和やかな雰囲気の中進んでいきました。

「小学生の自分から今の自分を見たら？」の質問に「信じられない。大勢の前でこんなに話せるなんて」と植田さん。「社会で活躍している、昔あこがれていた大人になれているかな。」と語る森田さん。そんなお二人からの後輩・保護者に向けてのメッセージは…

「吃音があってもなんとかなります。」(植田)

「吃音に対する悩みはその症状というより、本人の捉え方で変わるので、正しい捉え方に導いてってください。」(森田)



- 小さなことでいちいち悩んでいましたが、勇気ももらいました。話すことをためらわず、それを使う職業に就く学生さんそして伊藤先生を間近に見て、話を聞き、子どもに自信をもって吃音のことを伝えられると思いました。当事者ならではの悩みの克服の仕方がとても参考になりました。
- 吃音を抱えながらも自分の人生を楽しく歩もうと自信をもつことができました。
- お二人の本音がうかがえてとても納得でき、楽しくお話を聞くことができました。
- 大学生のお二人、吃音を機に、将来を前向きにとらえ、立派です。わが子にも前向きに生きてほしいと思います。
- 楽しくお話を聞くことができ、「息子もあんなふうに立派になるのかな」と楽しみにになりました。
- お二人とも吃音を受け止め、前向きに積極的に行動されていることで、自分のやりたいことをみつけ、目標に向かって頑張っている姿にすごいなと感心しました。吃音のせいではなく、吃音を武器に子どもが自分らしく生活を送れたらと思いました。

幼児期には親子で一緒にたくさん声を出そう。
 吃った吃らないにかかわらず、
 たくさんしゃべろう。普段通りに声掛けをしよう。
 歌をたくさん歌おう。絵本をたくさん読みあおう。
 自分の言いたいことが伝わっているという安心感を味あわせよう。

<第3部>交流会

当事者グループ・保護者グループに分かれての交流会です。伊藤先生と対談に参加して下さった2人の学生さんにアドバイザーとして加わっていただき、お互いの悩みや吃音に対する思いやそれぞれの夢について語り合いました。

- 話し合いをすることによって共感できることも多く、普段の生活ではできないことなので、よい経験になりました。
- 普段身の周りに食べる人がいなく、自分だけだと心にふたをして話すことをためらっていましたが、自分が知らないだけで、吃音に困っている人は多いんだなと思い、心が楽になりました。また今回のような会があれば参加したいと思います。



「わくわくキャンプスペシャル」は、すべての参加者が「吃音をテーマ」に自分自身の楽しく豊かな人生、そしてそのために今できることを考えることのできた素敵な会になりました。

「これからも吃音当事者の学生・社会人の方々と子どもたちとの出会いの場を設けてほしい」等、次回への期待の声は続々とよせられています。

「わくわくキャンプ」の出会いの輪が広がり、一人でも多くの方が「あなたは素晴らしい、あなたには力がある、そして何よりもあなたは一人ではない(伊藤)」とお互いを認め合いながらともに歩むさらに大きな仲間の輪となっていくことを願ってやみません。

伊藤伸二先生のご講義、学生さんの対談、交流会、それぞれに深い語りがありました。この限られた紙面ではすべてをご報告することはできません。ぜひ伊藤伸二先生のご著書をお読みください。人生を「しなやかに生きる力」をいただけること間違いなしです。

ぜひみなさんと一緒に
 「わくわくキャンプの出会いの輪」を
 大きく大きく
 広げていきましょう！！

